

責任ある農業サプライチェーンのためのOECD-FAOガイドンス

「責任ある農業サプライチェーンのためのOECD-FAOガイドンス」（以下「OECD-FAOガイドンス」という）は、企業が農業サプライチェーンにおける負の影響を軽減し、包摂的な成長を促進するのに役立つ。OECD-FAOガイドンスを実践することで、企業は負の影響に能動的に対処し、持続可能な開発目標（SDGs）の多くを達成することが可能となる。

背景

気候変動や限られた天然資源が課題となる今日、農業は持続可能な経済発展を遂げる上で決定的な役割を果たしている。

農業セクターの企業は、雇用創出と能力開発の主要な源となるとともに、増加する人口に安全で栄養豊富な食料を提供し、新エネルギー資源に貢献するための専門知識、技術、資金調達能力を有する。安全で質の高い食用および非食用の責任ある農産物を生産することは、すべてのステークホルダーにとって依然として重要な課題である。

OECD-FAOガイドンスは、サプライチェーンにおけるリスクを特定して優先順位を付け、負の影響を回避し、リスクに対処し軽減するシステムを確立するために、リスクベースのデュー・ディリジェンスのプロセスを勧告している。デュー・ディリジェンスが効果的に実施されると、社会的評価リスク、操業リスク、金融リスクが低減されることで、企業の利益につながり、事業者のSDGs達成への貢献にも役立つ。

OECD-FAOガイドンスについて

OECD-FAOガイドンスの勧告は、国内資本と外資系、民間と国有、中小企業と大企業の別を問わず、農業バリューチェーンにおけるすべての事業者を対象としている。本ガイドンスには、以下の2つの主要セクションが含まれる。

● 農業セクターに係る基準

このセクションでは、企業が責任ある農業サプライチェーンを推進するために遵守すべき基準をまとめている。扱うテーマとしては、ジェンダーや利益配分に加え、人権、労働者の権利、安全衛生、食料安全保障と栄養、所有権、動物福祉、環境保護、天然資源の持続可能な利用、ガバナンス、技術とイノベーションなどが含まれる。

● デュー・ディリジェンスの5段階の枠組み

企業は、自らの活動がもたらす実際のおよび潜在的な負の影響について特定、評価し、優先順位を付け軽減するとともに、これらの負の影響にどのように対処するかについて説明責任を果たすべきである。すべての企業がデュー・ディリジェンスを実施すべきだが、本枠組みはサプライチェーンにおける事業者のそれぞれの位置付けに合わせて実施することができる。

5段階の 枠組み

1

強固な企業経営システムの
確立

2

サプライチェーン
におけるリスクの
特定、評価および
優先順位付け

3

特定されたリスクに
対処するための戦略
の策定と実施

4

サプライチェーン
におけるデュー・
ディリジェンスの
検証

5

サプライチェーン
におけるデュー・
ディリジェンスの
報告



「責任ある農業サプライチェーンのためのOECD-FAOガイダンス」の実践を支援する活動

1. OECD-FAOガイダンスの実践を促進するためのアグリビジネス企業とのパイロット・プロジェクト
2. デュー・ディリジェンスの各5段階を実施する企業を支援するための実務的なツールやガイダンス
3. デュー・ディリジェンスの取り組みおよびツール、解決策を共有するためのピア・ラーニングのウェビナーや会合
4. 責任ある農業サプライチェーンに関するマルチ・ステークホルダー円卓会議や協議会
5. 責任ある企業行動におけるOECD勧告を推進し、苦情の建設的解決を支援するための各国連絡窓口（NCP）のグローバル・ネットワーク

お問い合わせは下記までお寄せください。

Ms. Shivani KANNABHIRAN | Responsible Business Conduct Unit
OECD Directorate for Financial and Enterprise Affairs | Shivani.KANNABHIRAN@oecd.org

Mr. Pascal LIU | Team Leader, International Investment and Tropical Fruits
Trade and Markets Division, FAO | pascal.liu@fao.org

<http://mneguidelines.oecd.org/rbc-agriculture-supply-chains.htm>

<http://www.fao.org/economic/est/issues/investment/guidance>